

部員一人ひとりが主役・主人公



—全女性連会長として、部員とどのように接していますか。

女性部は部員一人ひとりが主役・主人公で、私は皆さんを引き上げるためのコーディネーターに過ぎません。普段は部員の人たちと話をする機会があまりありませんので、懇親会の席などでは部員一人ひとりと直接お話しするようにしています。十月に開かれた女性部の広島大会では、時間がありませんでしたので、参加者全員と話すことはできませんでしたが、半分ぐらいの部員とお話をすることができました。

先日、佐渡ヶ島にある世界のトップ企業に納品する大手通信会社の社長から「お客さんにお礼を言う時は、頭を下げて一〇数える。何か失敗して謝る時は頭を下げて二〇数える。これが、商人なんです」と教えられました。多くの人にお会いして良いお話をお聞きし、それを皆さんに伝えていくことも、私の役割だと思っています。

—厳しい環境が続く中で、女性部が現在抱えている課題も多いのではないですか。

商工会の合併が進み、部員が少なくなるのは止めようがありません。これまで部員増強表彰は、増減を差し引いて増えた部分が多かった女性部が表彰していましたが、平成二十年度からは「ありがとう」という意味を込めて、減少した人数は関係なく一番部員を増やした女性部を表彰するようになりました。数は力ですから、皆さん頑張ってください。地域での女性部の役割が高まっています。今後、どのような事業に力を入れていきますか。

女性部の仕事として、子育て支援と創業支援を掲げていますが、われわれは販売人ですから、特に創業支援に力を入れていきたいと考えています。どんどん新しい事業を興して成功の体験談を語っていただければ、創業をしようという人たちの参考にもなりますし、励みにもなります。

また、「魅力ある女性部づくり」にも取り組んでいます。これは、女性部がどのような活動を行えば、満足感や充足感を持って部員が女性部活動に参加していただけるのかを考えていくもので、二年度から新たな事業として取り組む予定です。

私は佐渡ヶ島に住んでいますので、中央から離れているため情報が少なく、情報がいかに大切かということを感じています。情報をすばやく全国の部員に流せる仕組みをつくりたいのです。ブロック大会にしても、全国大会にしても、全部員が参加することは不可能です。大会の模様をす

ぐに写真をつけ、メールで流すようにすれば、女性部の活動の内容がわかりますし、女性部に興味を持つ人が増えるのではないのでしょうか。

—末武会長は二〇年近く女性部活動に携わっておられますが、これまで特に印象に残った出来事はどのようなことですか。

平成十八年に女性部の全国大会を新潟に誘致しました。誘致にあたり、知事に「一〇〇〇万円の補助金を出していただければ、新潟県に一億円の経済効果をお返しできます」と訴えて、了解を取りました。しかし、十七年十月に中越地震が起き、新潟県内約半数の商工会地域が災害救助法の適用を受ける事態となりました。地震から一年足らずの復興途中での開催でしたから、「こんな状況で開催できるのか」という声もありましたが、「皆で力を合わせて全国大会を成功させよう」を合い言葉に準備を行い、無事終えることができました。また、全国の女性部員が「新潟の復興に協力しよう」と過去最高の四二〇〇人も参加していただき、地元経済への貢献は多大なものとなりました。開催地域への経済効果を訴えることによって行政からの協力を得られること、全国大会を開催することで部員の結束力が高まることを、これから全国大会を開催される地域の方にお伝えしたいです。

—全国の女性部員にメッセージをお願いします。

昨年、全国組織化四〇周年記念事業として、女性部の統一ロゴマークを制作しました。このロゴマークに込められた「全国六ブロックの商工会女性部が一致団結して活動する姿」のように、女性部六ブロックが手をつなぎ、前向きに前進するよう頑張っていたいただきたいと思います。